



「教会長の継承」

村田喜實雄先生は、昭和十五年に、岡山県倉敷市にある金光教長浜教会で、三代教会長夫妻の三男としてお生まれになりました。八人兄弟の末っ子にあたられます。

兄弟が次々に金光教師になられ、先生も後に続くように昭和三十五年、二十歳で金光教学院本科（二年）に入学、三十七年に金光教師の補命を受けられました。

Qご兄弟は皆さん八人とも金光教師になられたのですか。

村田先生（以下・村）.. 正確に言うくと、八人兄弟の中の双子の一人が早くに亡くなったので、七人ですね。長男が長浜教会を継ぎました。

Qお兄様が後を継がれて、先生は外に布教に出ようと考えてましたか。

村.. 当時、跡継ぎのおられない教会は沢山ありまして、卒業後は実家の教会で御用させて頂いてましたが、よく後継に来ないかというお話がありました。私は、どういってお教会でも、私でよければ...と思つてましたが、決まりそうで不思議と決まりませんでした。

Q子安教会には、どういふ縁で後継に来ら

れたのですか。

村.. 私の産みの母と、子安教会初代教会長夫人が姉妹で、初代夫婦には子供がなかったの
で、実は高校卒業後に母から「子安にいか
いか」という話があったのです。自分はそ
うさせてもらつてもいいと思つてましたが、も

し万が一私が子安教会から
出て行くようなことがあ
れば、姉妹の仲も悪くなつて
しまう、と考え、その時は



川でスベって山でコロんで……とつてきました

Interviewee

第25回 村田喜實雄先生（子安教会）

断りました。

それでも、縁があったの
か、昭和三十九年に結婚し
て、子供を二人授かつて後
の昭和四十三年、茨城県水
戸教会の岡本真行先生か
らお話を頂き、子安教会へ後継として向かい、
養子縁組させて頂きました。

Q家族で行かれて、子安教会はにぎやかになつたのではないですか。

村.. そうですね、その頃は教会長夫妻と、教会長の父親がおりましたので、一気に七人家

族になりました。

人数は多いのですが、おじいちゃんは寝たきりで、教会長である義父は連合会や教区の御用を沢山かかえ、義母は介護と御用と...という状態でした。私もすぐに、親教会である神奈川教会での御用にお使い頂きました。定期券を買って、毎日の様に通つてました。そうした中で、御用を通して色々教わる事が出来ました。

数年後、体調不良のため、義父母は療養も兼ねて川越教会に行くことになるのですが、その際、教会長を辞任しました。

体調不良と言えど、まだ御用もしており、当時そういう状態で途中で教会長を代わるといふのは珍しかったです。色々な考えがあったのだと思います。その後、川越教会でご信者さんからの要望もあり、川越教会長となり、晩年を過ごしました。

色々な考え方があると思いますが、私も時が来れば、すぐにでも交代したいと考えています。自分の都合でなく、教会や信者さんにとっていい時に引き継げたら、と思います。

Qありがとうございました。（今村則子）



☆『みんなのつどい』

7月24日(土) 神奈川教会を会場に、37名の参加(大人27名・子供10名)のもと、「みんなのつどい」(連合会主催)を開催し、竹トンボ作りと流しそうめんを通して、教会を超え、世代を超えて交流を深めました。

午前中は竹トンボ作りです。今回作る竹トンボは、長さ90ミリ・幅18ミリ・厚さ2ミリに割いた竹材をヤスリで削ったり、火であぶって曲げたりして作ります。

まずは簡単な竹トンボ作りの工程を、一通りみんなと一緒にやってみました。その後、竹トンボ作りサークルに所属しておられる辻康宏さん(神奈川教会)を講師に、本格的なやり方を教えていただきました。中でも左右の羽のバランスを取るのが難しく、片方の羽を削っては、

削りすぎてもう片方の羽を削る：というように、微妙な重さの加減に悪戦苦闘している姿も多く見られ、老若男女問わず、みな子供のようになまなましい眼差しで作っている様子が印象的でした。

お昼には竹を半分に分けた樋を使って流しそうめんです。ゲーム感覚が子供たちに大人気で、小さな戦士



たちは、まだ流す前から自分の足場を固め、箸を構えてターゲットを待ち構えています。いざ白いそれが流れてくると、食べるのもどかしくターゲットを追いかけ、みんな上手に箸ですくって、楽しみながら食べていました。

その後、会場を近所の公園に移して年令別で組分けをして「飛ばしっこ」をしました。さあ、午前中手塩にかけた愛機は、どんな飛ぶ姿を見せてくれるのでしょうか？それぞれに期待に胸を膨らませて飛ばしてみました。聞くところによると、意外に時間のないところでサツと作ったものが優勝したり：なんてこともありまして、作り方の出来は良くても飛ばし方は：？竹トンボの奥深さを垣間見させていただいた一日でした。

優勝者にはキレイにペイントされた竹トンボが授与され、参加者それぞれにも記念品として竹トンボを一本ずつと、竹細工のトンボを一家族一つずつ贈られました。

本格的に始めたら、工夫次第で色々な物が作れる竹トンボ。参加者の中から「竹トンボ達人」が生まれる日も近い：かも？

(村田光治)

かりんの輪



「神を信じきる」

武蔵小杉教会 佐藤 由美

私が武蔵小杉教会にお引き寄せを頂いて、二十年になります。子どもの問題でお参りするようになり、自分の心も神様に預けたせいか、わずか一年でだんだんと良くなってきました。このことで私が気づいたことは、神様は本人(人間)が自分(神)の方に向いてくれないとどうしようもなく、いくらお願いされても無理なんだなという事です。

子どもの問題が終わると、次々に神様は私をお試しになりました。小さいことから大きいことまでいろいろ起きました。その中でも、一番スゴイ絶体絶命の出来事がありました。それは、私の家に強盗が入ったことです。

朝、一番下の子どもを幼稚園のバスに乗せ、家に戻って来た時です。玄関に入ると誰か人影が見え、私は上の子が何か忘れ物を取りに戻って来たのかと思いい、どんと奥へ入っていった瞬間でした。黒いマスクをした男が凄いい勢いで私の胸を掴み、のど元にナイフを突きつけてきたのです。とても生きた心地はしませんでした。私はもうこの命、神様に預けるしかない、心の中で一心不乱に「金光様、金光様」と叫び続けていました。この最も危険な状態に、神様はスゴイ解決方法

☆ 宗教文化講座

(教師信徒研修会)

開催される

9月3日(金) 午後2時、鎌倉芸術館において、69回目の神奈川県宗教連盟主催の、宗教文化講座が開かれました。今年には金光教の担当で、講師は、宇部東教会長・立川和正先生、



講題は「お時間です!」。

時間には3種類ある。①は時計で現される時間。一定の約束事の中で、社会生活を営む上には欠くべからざるものではあるが、この時間は知らなくても生きていける。②は天地の時間。日が昇り日が暮れる、潮の満ち引き、地球や宇宙的な規模の時間、人間が作った約束事が通用しない時間。③は私の時間。生まれてきて死ぬまでの、それぞれの時間、これがある意味最も身近な時間と言える。

私たちはどこから来てどこへ行くのだろうか。生まれたばかりの赤ちゃんはとてもいい顔をしている、そして、死んだその瞬間、人間は苦しみから解放されて、とても穏やかな顔のお顔になる。つまり、人はかなりいいところ

から来て、かなりいいところに戻っていくのではないだろうか。で、その中間部分である人生で、「お時間です」と言われるまで、私たちはそれに見合うような、いい生き方をしているだろうか。

人生は4つに区分できるとして、先生は、白板に横に1本、長い線をお書きになりました。左端に0、右端に100、真中を50とし、その中間を25、75とされました。

即ち25歳までを春、26歳から50歳までを夏、51歳から75歳までを秋、76歳以上を冬、に例えられる。また色を当てはめることができる。

即ち、春は未熟な青(青春)、夏は燃え盛る朱(朱夏)、秋は穏やかな白(白秋)、そして、冬は死の準備をする玄(玄冬)。春のテーマは「育つ」(知識や技術を習得して一人前になる)。

夏のテーマは「作る」(それぞれの人生を作る、財産を、家を作るが、また一面、罪を作る人もある。心を込めて作ることが大切)。秋のテーマは「悟る」(無我夢中で来た人生を振り返り、これでよかったのかどうか、微調整を試みる)。

そして冬のテーマは「任せる」(それまでできていたことができなくなっていく時代、もはや天に、神に、あるいは仏に任すしかない)。

それぞれの時代のテーマに合った生き方を、一人ひとりが探しながら生きていく、これが楽な生き方だと思ふ。人生の目的は何か、と訊かれても、私には答えられない。だが、そんなに大層なことなくていい。人に対して、

で、私を助けて下さいました。犯人は私を後ろ向きにして座らせ、「いいか、静かにしろ」と言つて足音も立てずに逃げて行ったのです。

私はしばらくはまだ犯人がいると思ひ、なかなか後ろを振り向くことができませんでした。5分位経つて、恐る恐る後ろを見ると犯人が出ていったことが分かり、その場でへたり込んでしまいました。助かった!! 神様が助けて下さったのだ!! と思うと、生きている喜びが、有り難くて、有り難くて、涙が止めどもなく流れてきました。でも一人していると不安なので、近所のパン屋さんに駆け込んで、今まで起きた事を話すと奥さんは「それは大変」と、すぐに警察に電話して下さいました。

その後、警察が来ていろいろ聞かれました。まるでテレビで見る事件現場みたいでした。警察も帰り、家族みんなで良かったと言えた時、やっとホッとすることができました。その夜、こうして布団に寝られる事がどんなに有り難い事かと思うと、また、涙が溢れて止まりませんでした。

凄くおかげを頂いた私は、一日一日を一生懸命に生きないと神様に申し訳ないなと思ひました。せつかく命を頂いたのだから世の中の何かに役立ちたいと、今は時々介護施設で趣味のフォークダンスを披露し、お年寄りの皆様に大変喜んで頂いております。これからも神様を信じ、神様と共に歩んで行きたいと思ひます。

暖かい眼差しを向け、心のこもった一言を口にし、微笑みを返し、柔らかな思いを伝える。そういうことを心がけていきたい。それだけで、十分楽しく幸せなお互いでいられるのではなからうか。

以上が、私なりの理解の仕方ですが、講演要旨でした。非常に格調高く感銘深いものでした。その後アニメ「金光さま」を上映して、講座は終わりました。講演もアニメも、他宗の方々に、非常に好評で、金光教信奉者として、誇りに思いました。

(金光教からの参加60名。後日、各教会へDVDを記録としてお配りします。)

(報告・大塚東子)

☆連合会からのお知らせ

「講話と夕食の会」

日時 12月4日(土) 午後3時～7時

(講話は5時に終了)

場所 神奈川教会3階ホール

講題 「人を大事にする話し方」

会費 一、〇〇〇円

(会食に参加する方のみ)

講師 西原 實さん(浦和教会信徒)

辰星技研(株)の会長さんで、金光教の信仰にも熱心な方。信心を土台にした仕事の在り方や、人を大切にする生き方について熱く語って下さいます。

皆さまの多くの御参加をお待ちしています。

教会名	日 時
甲府教会	10月17日(日) 13時30分
津久井教会	10月23日(土) 13時00分
鎌倉教会	10月24日(日) 13時30分 開教80年記念祭
川崎教会	10月24日(日) 13時00分
登戸教会	10月24日(日) 13時00分
横浜西教会	10月24日(日) 13時00分 教会設立25年記念祭
鶴見教会	10月31日(日) 13時00分 布教80年記念祭
大明教会	10月31日(日) 13時30分
横須賀教会	11月3日(祝) 13時30分
生麦教会	11月3日(祝) 13時00分
丸子教会	11月3日(祝) 13時00分
相模原教会	11月3日(祝) 14時00分
平塚教会	11月6日(土) 13時00分
子安教会	11月7日(日) 13時30分
大磯教会	11月14日(日) 13時00分
武蔵小杉教会	11月14日(日) 11時00分
野毛教会	11月20日(土) 13時30分
小田原教会	11月23日(祝) 14時00分
神奈川教会	11月27日(土) 11時30分
藤沢教会	11月28日(日) 11時00分
南甲府教会	未定

「生かされて生きていく」

神奈川教会 柴田俊郎

六十五年前、私は広島で爆心地より二・三kmの地点で被爆しました。授業が始まったばかりの教室にいたので、二度の火傷ですみました。一緒に外に出た友達が負傷していたので、避難先の似島に泊まることになり、屋根のある倉庫の様な所で、黒い雨にも遭わずにすみました。投下された翌日とその翌日の二度、爆心地を通っておりながら、原爆症にならずに過ごさせて頂いておることは、すべてがお陰であったと、真に有難くお礼申さずにはおられません。

原爆の被害の大きさ、核兵器の恐ろしさも知りました。未だに原爆症で苦しんでおられる方の全快をお祈りすると共に、核兵器が地上より早く無くなくなるよう、二度この様なことが起こらないよう願っています。当時は、草木も生えず、住むこともできないだろうと言われて、私も五十才までしか生きられないと思っていました。ところが八十才を過ぎましたが、これまで薬に頼ることなく、医師の手をわずらわすことは時にはありますが、たいしたことなく元気に過ごさせて頂いているのは、なんと有難いことだろうとお礼申しております。出来るだけ御恩に報いることができるよう、御用に当たらせて頂きたいと思っております。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 福田 光 一

〒221-0057 横浜市神奈川区青木町六一二十五
金光教神奈川教会内